

学校教育目標	中・長期的目標	総合評価
1 高い知性と豊かな心、健やかな体を育み、自ら考え探究する力を養う。 2 個性や能力を伸ばし、自主・自立の精神と敬愛・協同の精神を培う。 3 社会の一員としての自覚を高め、進んで社会に貢献する人物を育てる。 4 国際社会を深く理解し、平和を希求する人物を育てる。	(1) 生命・人権尊重の精神と敬愛・協同の精神を養い、安心・安全な学校づくりを行う。	コロナ禍の中、より一層の生命や人権尊重を意識した取り組みは重要である。学校に来れなくなってしまった生徒のサポートに職員間の情報共有を綿密に行いたい。
	(2) 生徒の主体性を育み、個性の伸長と智・徳・体の育成を図り、探究的な学びを通して学力の向上を図る。	SSH委員会を中心に課題研究を中核とした探究的な学びに取り組み、主体的に学ぶ力を育成した。更に、基礎学力を向上をベースとして、新学習指導要領で示された3つの力の育成を図ってきたい。
	(3) 開かれた学校づくりと地域や外部機関との連携を推進し、生徒の社会参画の力と未来を創造する力を育てる。	新型コロナウイルス感染症対策と並行して、地域ボランティア、高校生チューターなどを実施した。地域や外部機関との連携は生徒の能力を高め可能性を広げるために必要不可欠なことから、オンラインを活用するなど今後の積極的に取り組んでいきたい。
	今年度の重点目標(評価項目)	成果と課題
	① 互いの存在を認め合う人間関係を構築するため、様々な場を通じて人権意識の啓発と尊重に取り組む。	人権教育について、新型コロナウイルス感染症について誹謗中傷や差別を防止する取り組みを適宜行うことができ、生徒は良識をもって学校生活を送れている。スマートフォンの使用方法やSNSに関連したトラブルについては、常に注意していく必要がある。
② 学校全体で「探究的な学び」に取り組むとともに、将来展望をふまえた多様な学びや学校のあり方を検討する。	全学科で課題研究に取り組み、探究的に学ぶことができた。指導体制についても人数を増やすなど充実させることができた。今後の生徒数の減少をみすえて、学科のあり方の検討が課題である。	
③ 進路実現に向け、生徒自らが考える力の育成を図るための「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を推進する。	授業発展自己診断表を活用し、各教科で授業改善に取り組んだ。休校期間中にオンライン授業を行うなど、ICTを活用して学びを止めないことにより生徒の進路実現が図れるようにした。そこで得たノウハウを今後活かしていきたい。	
④ 学校と家庭、地域との連携及び協力のもとに教育活動を進めるとともに、情報発信の充実を図る。	学年・学級PTA、支部PTAを、一部ではコロナ禍以前のように実施することができた。次年度も、職員が地域へ向かうことで率直な意見をいただく機会をもちたい。また、「飯高ジャーナル」を月刊で発行しホームページにも掲載することで、情報を発信することができた。今後、ホームページのさらなる充実を図ってきたい。	

A(よくできた) B(だいたいできた) C(やや不十分) D(不十分)

重点目標	評価項目	主となる分掌	評価の観点	評価%				成果と課題	改善策
				A	B	C	D		
①	互いの存在を認め合う人間関係を構築するため、様々な場を通じて人権意識の啓発と尊重に取り組む。	1学年	・生徒ひとり一人が、高校生活に適應し、新たに出会った仲間と絆を深めていけるように支援することができたか。そのうえで、進路への意識を明確にし、日々の学習に対して前向きに取り組めるよう指導することができたか。	17	78	5	0	行事等もほぼ計画通り実施され、高校生活に慣れ、新たな人間関係を築くことができた。日々の学習への取り組みが、進路実現の第一歩であることを継続的に指導してきたい。	「慣れ」が、だらしないに繋がらないよう留意する。提出物等の期限遵守を徹底する。
		2学年	・学校生活の諸場面において、他を理解し、尊重する態度を育むことができたか。特に文化祭や研修旅行などの行事を通しては、周囲と折り合いをつけながら一つのものを作り上げる達成感を味わうように支援することができたか。	17	71	12	0	・文化祭や研修旅行を通して、仲間を尊重する態度や周囲と協力しながら物事を進めていくことの爽やかさを味わうことができた。一方で、学校生活への慣れから新鮮さが薄れたのか、無気力無感動に陥っている生徒もいる。	・進路への意識を高め、進路実現に向けて情熱を傾けられるような支援をしたい。授業改善により、生徒が「キドキする」ような授業を実施したい。
		3学年	・最上級生として、主体的に生徒会活動、クラブ活動等の企画運営に携わること、将来をデザインして進路目標を設定することを支援する中で、生徒一人一人が自分に自信を持ち、互いの違いを尊重し合い、主権者意識をもてるようになったか。	22	76	2	0	・生徒たちは、主体的に生徒会活動、クラブ活動に取り組み、思いやりをもって友だちと付き合うことができていた。反面進路や学習面についてはやや受身の面があり、主権者意識も浸透したとまでは言いがたい。	・学力を付けて自分の進路を勝ち取ることで、視野も広がり、自己肯定感も増す。学習についても早めの意識付け・手立てがなされると良い。
		生徒会係	・生徒会活動・クラブ活動等の自主活動を充実させ、生徒一人ひとりが活躍できるよう支援することができたか。	27	63	10	0	・コロナ禍の中、文化祭では数年ぶりに一般公開を行うことができ、生徒達の日頃の活動の成果を最大限に発表できる方法で開催できるように支援することができた。 ・生徒総会など各種の集会は体育館にて全生徒が密を避けながら参加する形で実施することができ、スムーズに行うことができるようになった。	・コロナの経験を活かして、各種イベントの内容や実施方法に有意義なものに内容させていけるよう支援をしていきたい。
		生活指導係	・人権尊重と、いじめ・暴力のない安心安全な学校づくりができたか。 ・多様な生徒に対し、生徒相談の体制を充実させる事ができたか。	15	71	12	0	・アセス(学校環境適応感尺度)を実施し、係・担任等との連携会議で情報の共有を行った結果、新たな気づきも認識でき相談体制の充実を図ることができた。いじめ・からかい等の事案はなかった。	・引き続き生徒相談係と協力して綿密に情報を共有することにより、相談体制を充実させ、他人を思いやる人権意識も高めていきたい。
		保健環境係	・生徒の心身の健康を支援する活動や全体での取組みができたか。	24	73	2	0	・新型コロナウイルス感染症の対策を重点的に実施。学級学年閉鎖は実施したが、クラスターの発生はなかった。熱中症対策も力を入れて行った。	・5類移行後も感染対策の継続・不登校傾向生徒の見守り
		環境整備係	・校舎を長く気持ちよく使えるように美化に努め、望ましい教育環境の整備ができたか。	24	73	2	0	・通常清掃はよく取り組んでいるが、さらに徹底したい。美化委員会と協力して昨年できなかった清掃用具の片付け等することができた。(過去の文化祭での不潔物の整理及びモップ交換等)事務室と協力してのゴミステーションの運営・管理を行った。	・美化委員と協力して見廻りなど通常清掃をさらに充実させる。 ・衛生面に気をつけながら、ゴミ捨て等の方法もよりよいものにしていく。
②	学校全体で「探究的な学び」に取り組むとともに、将来展望をふまえた多様な学びや学校のあり方を検討する。	各教科	・各教科の特性を踏まえ、ICTの有効的な活用を含めた生徒の能力や個性および各学科の実態に即した指導を研究することができたか。	17	68	15	0	新教育課程において、教科書や指導内容が変化中、十分な情報交換の時間が取れていない。	教科はもちろん、他校の情報などを収集し、よりよい授業づくりを検討すること。
		普通科	・多様な生徒の能力、個性、進路希望に応じた学習環境を整備し、進路指導することができたか。	12	85	2	0	多様性のあるカリキュラムを用意し、実践できているが、生徒減、教員数減を見据えて整理、再考していく必要がある。進路指導の面談を更に充実させる必要がある。	より効果的に学べるよう、課題・選択科目の見直しなどをしていきたい。
		探究科	・探究活動や課題研究の中で、各教科で学んだ知識・技能を応用することで学習の深化・高度化を図れたか。 ・国際的・地球規模の視野を持ち、課題発見力、解決力及び情報発信力を育成できたか。 ・高い目的意識と進路実現に向かう姿勢をつくることができたか。	20	66	15	0	30以上の大学や研究機関等と連携して授業を行った。第一回SSH探究の日(サロン)を新規実施し184名が来校した。これにより生徒の「情報発信力」が大きく向上した。県学生科学賞への出席数も県内最多23件で、1位・2位を獲得した。英語論文論議(1年)、台湾交流(2年)、英語スピーチ(3年)を実施できたが、生徒の国際性に対する肯定度が低い。	海外との交流を増加させるとともに海外研修を計画する。
		スポーツ科	・学科の特徴を踏まえ、生徒の能力・個性に応じた指導で学力を伸ばすことができたか。 ・専攻種目の指導を通して、競技力の向上を図ることができたか。 ・課題研究に積極的に取り組むことで、課題発見能力、課題解決力とプレゼン能力を伸ばすことができたか。	20	80	0	0	・スポーツ科として、必修科目のスポーツVIでは1年時から体づくり運動を学び、その学びを活かして3年時では、運動指導の実践など専門学科として学びを深めた。 ・専攻種目ごとに競技力を向上させてきている。県大会、全国大会、世界レベルの大会などで生徒の活躍がみられた。 ・課題研究では、学校全体での取り組みも含め、課題発見力やプレゼンの力が年々上がっており成果を感じている。	・スポーツVIでの小学生への指導に関して今後も指導する場を増やし経験を上げていく必要がある。 ・課題研究や専攻で、成果を上げている生徒がいる反面、伸び悩んでいる生徒もいる。指導者の数にも限界があるので、課題研究での学びを活かし、1人1人が主体的に自身の競技力向上に取り組める指導を工夫していきたい。

		学校運営会議	SSH第Ⅲ期の指定や令和4年度より実施される新学習指導要領をふまえて、「3つの方針」「グランドデザイン」のブラッシュアップを含めた将来展望について議論を深めることができたか。	20	66	10	2	将来展望や3つの方針についての議論を行った。	委員会を複数回開催し、さらに検討を進める。
		カリキュラムマネジメント委員会	学習指導要領改訂に伴う新教育課程について、各部署から意見を集約し、よりよいあり方を検討できたか。 新たな評価のあり方の研究を進めることができたか。	15	66	15	2	・新教育課程について、特にR6年度の選択帯の編成を通じて各教科からの意見を集約し、検討した。R6年度選択帯はまだ確定には至っておらず、また教育課程の見直しも不十分であり、少なくともR4年度入学生教育課程(3年次部分)及びR6年度選択帯については来年度早急に確定させる必要がある。またR5年度以降入学生教育課程についても、見直しが必要な場合には早期に対応する必要がある。 ・3観点の割合と観点別評価の材料の妥当性について、各教科・科目の基準を集約した。	・委員会内での検討には限度があるので、検討結果をもとに職員会等で問題意識を共有し、議論を深める。
③	進路実現に向け、生徒自らが考える力の育成を図るための「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を推進する。	各教科	・授業内容、授業方法について各教科で研究し、課題を発見する力など、社会が求める「新しい学力」の向上を目指すことができたか。	12	76	12	0	・全学年に1人1台端末が整備され、多くの教科でICTを活用した深い学びの研究が行われ始めた。	・ICTの活用法について意見交換できる場を設定するなどし、さらなる推進をしていきたい。
		学習指導委員会	・公開授業、シラバスの提示、授業アンケート、各テストの資料分析等をもとにした授業改善を行うことができたか。 ・学習に取り組む姿勢の強化を促すことができたか。	10	66	22	0	・教科ごとにシラバスの提示、授業アンケート結果を基に授業改善、模試等のテスト結果についての分析を行ってきた。 ・テスト前に各学年で学習に取り組む姿勢を見直し、また、教科枠を超えた学習の場を設定し、将来の進路の参考となる企画を計画した。	・各教科で、授業アンケート結果等を取り入れ、タブレットの活用やオンライン授業等の教材研究や授業改善等により授業改善を進めていく。 ・学年、進路係、各教科と連携し、学習意欲を高める機会を設定していく。 ・委員会業務は進路指導係、各教科、各学年で継承していく。
		進路指導係	・「主体的・対話的で深い学び」の取り組みを通じ、進路意識の向上と生徒一人ひとりの進路実現を図ることができたか。 ・模擬試験の分析結果等を学年・教科・生徒と共有し、生徒自身の主体的で深い学びへとつなげることができたか。	10	80	7	0	・公務員受験者は、ほとんど対策をせずに受験となり不合格であった。公務員受験の意識づけのために早い時期から対策の呼びかけをしたが効果がなかった。 ・コロナ禍ではあったが大学出前授業を開催し、大学研究や学術系別進路学習を行うことができた。生徒も主体的に参加することができ、進路意識を高めるいい企画となった。 ・教科によっては主体的に模試分析をし、生徒の学びへとつなげることができたが、全ての教科でそうした取り組みができるよう働きかけたい。	・就職希望者、とくに公務員希望者には早めの対策を継続して促していく。 ・コロナ禍であっても進路学習に積極的にならず、進路行事を活用して生徒の進路意識の向上を目指していきたい。 ・模擬試験のたびに、その分析結果を生徒に伝えたり、対策を学校にお願したりしていきたい。
		飯山カリキュラム委員会	・地元の小中学校と連携をとり、数学・英語・理科を中心に学力向上のための新たな取り組みができたか。	15	73	10	0	・近隣中学校との授業交流や情報交換を主にいい、小中高で連携した研究授業も行った。 ・小中高通しての課題の明確化や取り組みの方法が今後の課題である。	・年度当初に課題を委員で課題を明確化して取り組みを具体的に考えて行っていく。
		SSH委員会	・各教科の「主体的・対話的で深い学び」ができる授業を開発実施することで生徒の興味と疑問を喚起し課題研究に繋げることができたか。 ・「課題研究」を中心に据えた教育プログラムにより課題発見力・設定力・解決力及び情報発信力を育成することができたか。 ・ルーブリックやポートフォリオを活用することで、生徒が自己の変容に目を向け、成長に繋げることができたか。 ・科学系コンテストや対外的な場面に参加するなど、積極的に情報発信できる生徒が増えたか。	32	68	0	0	・成果>探究活動ルーブリックを活用し生徒の変容に着目しながら研究開発を行った。探究の授業が主軸となり、積極的なアウトプット活動を実施したことで、生徒の情報発信力が向上した。外部発表件数が80件あり、長野県学生科学賞で県知事賞(2年連続)を受賞するなど入賞数も増加した。 ・課題>SSH事業運営の分担と共有/国際性の涵養	・指導書と運営マニュアルを作成したので、それらを活用して海外研修のR6年度での実施を目指し、計画を進めていく。 ・学校と地域に対して分りやすく、興味をもてるような情報発信を行う。
		ICT情報処理係	・探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用できる条件を整備することができたか。	39	59	0	0	・各HPR教室に電子ペンとHDMIケーブルを整備し、プロジェクタへの投影しやすい環境を整えた。	必要な備品について準備を踏まえて対応できるようにする。
④	学校と家庭、地域との連携及び協力のものに、情報発信の充実を図る。	教務係	・学校HPや飯高ジャーナル等を通して情報を速やかに発信することができたか。 ・公開授業や体験入学に多くの参加者を得ることができたか。 ・ICTを活用し、生徒・保護者との連携を図ることができたか。	29	63	7	0	・HPには随時必要な情報を掲載できたが、レイアウトの整理など課題は残る。ジャーナルは発行が遅くなってしまったことが多かったが、毎月号を発行した。 ・公開授業は実施しなかった。体験入学は例年並みの参加者数を得た。 ・欠席等の連絡をオンライン化し、生徒の状況を把握、職員で共有することができた。	・HPについては、SNSの活用を引き続き検討し、情報発信の迅速化につとめる。ジャーナルは複数人による発行体制を確立する。 ・公開授業(通常授業)を計画する。 ・オンラインは引き続き活用し、生徒、保護者、職員間の情報共有を密にする。
		PTA厚生係	・PTA総会、支部PTA総会への参加率向上が図れたか。 ・PTA行事の企画運営を保護者とともに進めていくことができたか。 ・PTA会報の発行等とおして情報発信が図れたか。 ・活動内容・時期の見直し・精選等が行えたか。	17	76	7	0	・総会の出席は571名中476名(出席103名、委任状373名)でした(昨年度は585名中513名(出席127名、委任状386名))。支部PTA総会は開催できましたが、9支部中5支部が紙面開催となりました(昨年度は全て中止)。 ・一昨年度より続く新型コロナウイルスの蔓延の中、一部変更の上で全ての事業計画が実施されました。ほとんどの事業計画が変更・中止を余儀なくされた昨年度までと大きく異なり、事業継承が中断により失われる事態は避けられたといえます。その中で、正副会長・評議員をはじめとして会員の方には、学校の状況を御理解頂いた上で、前向きに活動して頂きました。 ・PTA行事が少なかった昨年度とは異なり、例年通りの分量の紙面で会報を組む事ができました。 ・活動内容の見直し・精選が行われ、文化祭におけるバザー等PTAによる協力は廃止となりました。強歩大会時における有志ボランティアは、関門等での給水補助、ゴールでの飲料・軽食配布という方式に定着しました。尚、降雨中止となったものの、のべ32名もの保護者の方々に飲料・軽食配布有志ボランティアとして協力頂きました。	・コロナ化を契機として諸行事の見直し・精選が行われました。次年度以降、現在の実施形態を継続していくのかは、学校職員とも連携しながら、意思決定会議である幹事会・評議員会・総会で議論していきたいと思えます。
		生徒会係	・生徒が自主的に地域の行事へ参加し地域の方と協力できるよう生徒会活動・クラブ活動等を支援することができたか。	22	78	0	0	・今年度は生徒会の役員や文化系クラブを中心に、地域と繋がる行事に積極的に参加させることができた。	・一部の生徒だけでなく全校の生徒も地域と関わりのあるボランティアや行事の情報を把握できるように各部室との連携をとっていきたい。
		同窓会係	・桂雪会ウェブサイトや桂雪会報によって多くの情報を発信ができたか。 ・創立120周年記念事業準備委員会による記念事業の準備が進んだか。	17	80	2	0	・会報は2月末に発行できた(スキーマの掲載の遅れ)。 ・募金の開始に合わせて、ウェブサイトを更新することができた。今後は日常的に更新していくことを考えていきたい。 ・募金開始が遅れたため、予算を常に意識しながら準備を進める必要がある。この2月から9月まで準備を急ピッチで進めたい。	・係内の役割の分担と連携をしっかりとりたい。 ・日常的に学校の教育活動にかかわっている部分があり、特に次年度はマンパワーの配慮をお願いしたい。